

「実現に至らせる神」

イザヤ書
ピリピ人への手紙

第40章6節～11節
第2章12節～18節

説教 岡村 恒牧師

神様は生きて、今この瞬間も激しく働いておられます。神様を信じ、主イエスを信じる時、私たちは世の光として輝くと約束されています。あなたたちがそこにいるだけで、暗闇を歩いて来た人は安心し、自分が死んで滅ぶ存在ではなく、命を得て生きることができることを知るようになる。聖書はそう言うのです。

子どもたちを見て、大人も同じような思いをしばしば抱きます。子どもが走り回っているだけで、喜び、希望を抱くことができます。花を見てもそうです。病気で入院している人が、小さな花が一輪飾られるだけで慰められます。今日、花がたくさん用意されました。花が豊かに与えられる季節に、私たちは花を見ながら神様に心を向けます。この世界は、私たちが神様に従って生きるために用意された世界です。感謝を捧げながらこの世界を守る責任が私たちにはあります。

〈花の日・こどもの日〉、今日の日曜日をそう呼んでいます。アメリカではこの時期、年度の終わりに神様の祝福を祈ります。花が咲き誇り緑があふれて命に溢れる時期に、神様のみ手の業を皆で感謝します。そういうことが重なって教会で祝われるようになりました。

「人はみな草だ。その麗しさは、すべて野の花のようだ。主の息がその上に吹けば、草は枯れ、花はしぼむ。たしかに人は草だ。」(イザヤ書 40章6-7節) 神が時の流れを始められて以降、全て造られた物は滅んでいきます。私たちはやがて地上の旅を終え、神の前に立ち、さばきを受け、本当なら永遠の滅びを受ける者でした。しかし神様はこう言われます。あなた方の内に消えることのない光をわたしは与えた、と。

ピリピの教会の人にパウロが手紙を書きました。イエス・キリストを救い主と信じて生きているあなたたちは自分の姿形が神様の目の前で変えられつつあることを忘れていませんか、と。

花は枯れますが、虫に蜜を与え、枯れて豊かな実りを与える材料となります。それを食べる動物もいます。花を目にし、香りを嗅ぐとき慰めや癒しを得ます。枯れてしぼむ物も神様の計画の為に用いられます。私たちもそうなのです。しかしそれは、神様のお喜びになる仕方です。達成されるべき目的です。ただ神様にだけ心を向け

て生きていけばよい。命の言葉を堅く握りしめて生きればよい。聖書はそう勧めます。

昔イスラエル王国にソロモン王という有名な王様がいました。その偉大さを見て人々は、ソロモン王を祝福した神様の力を畏れ、御名を褒め称えました。しかし聖書は言います。野の花一輪でさえ神様はソロモン以上に美しく飾ってくださるお方だ。神様は私たちの命をかけがえのない物として祝福して用いてくださいます。

あなた方の内に神様が働きかけて、2つのことを一緒にして下さる。『願いを起こさせること』、『実現に至らせること』の2つ。その願いの最も大事なことははっきりしています。「神の国と神の義とを求めなさい。」(マタイによる福音書 6章33節) あなたの為に十字架に架かってくださった主イエスを信じて生きればよいのです。洗礼を受けた者は、この願いが実現したことを知っています。まだその実現を確認していない方も、神の子として生きる願いを与えてくださった神が、その願いを必ず実現に至らせて下さいます。

やがてキリストの日が来ます。パウロはこのことを語りながら喜びます。すぐにでも処刑され、死ななければならぬかもしれない場面だけれども、私は喜ぶ、と言い切るのです。終わりの日が来る。この命が終わってもなお失われない命がある。神の約束が確かに完成する日が来る。あなたもがた一緒に喜んでくれ、と言うのです。

神様にこの美しい花を感謝し、子どもたちの為に祈ります。やがて終わりの日、そのように祈る必要もなくなります。神様の前に共に立って、神様を讃美する日が来るからです。その日までの期間限定の祈りを、しかし心を込めて祈り続けましょう。

星のように輝く私たちを造るために、神様は今も働いておられます。神様を信じて生きる、その願いを基に神様の御心にかなう人生を豊かに生きる。その願いを実現して下さるのが神様です。この神様の働きに信頼をして、主よ御心のままにしてください、あなたのご計画が私の人生全体を包み込んで実現します様にと、そう祈りましょう。神様は、必ずその祈りに応えてくださいます。

(記 説教要約奉仕者)